

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
第25回再生普及行動計画ワーキンググループ議事要旨（案）

日時：平成25年11月13日（水） 18：00～20：00
場所：釧路地方合同庁舎4階 第三会議室

【出席者（敬称略）】

<個人>

- ・新庄 久志 釧路国際ウェットランドセンター主任技術員・環境ファシリテーター
- ・高橋 忠一 再生普及小委員会 委員長

<団体>

- ・釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 鈴木 久枝
中島 忠雄
- ・釧路国際ウェットランドセンター・釧路湿原国立公園連絡協議会事務局長 菊地 義勝

<関係市町村>

- ・釧路市環境保全課 湿地保全主幹 菊地 義勝
- ・鶴居村産業振興課 小原 利也

<関係行政機関>

- ・環境省自然環境事務所 所長 西山 理行
- ・環境省自然環境事務所 野生生物課課長 大林 圭司
- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 上席治水専門官 市川 嘉輝
- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 治水専門官 稲垣 達弘
- ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター 重光 秀人
- ・北海道教育庁釧路教育局教育支援課 社会教育指導班主査 清水 秀紀

<再生普及行動計画オフィス>

- ・環境省釧路自然環境事務所 国立公園・保全整備課課長補佐 高見沢 敏男
釧路湿原自然保護官 渡邊 雄児
- ・公益財団法人北海道環境財団 事務局次長 久保田 学
安田 智子

議事 1 2013 年度再生普及行動計画WGの取組進捗状況

資料 1-2 に基づき、環境省渡辺自然保護官から説明し、各小委主催イベントについては主催者（釧路開発建設部稲垣専門官、環境省大林課長）から報告した。

資料 1-3 に基づき、参加者の感想等について紹介した。

議事 2 「ワンダグリンダ・プロジェクト 2013」中間報告（概要）

引き続き資料 2-1・2-2 に基づき渡辺自然保護官より説明。

ワンダグリンダの年次報告の作成が実施者、事務局とも負担であり、方向性を考えたい旨、説明した。

- 座長 追加のコメント等あれば。各小委の積極的な取組で市民が参加する機会、ユニークな行事が開催でき、参加者の感想も今後への期待が見られた。大いに励みになる。ワンダグリンダプロジェクトについては報告書のまとめ方を考えたい。ご意見を。
- 事務局 ワンダグリンダの報告が実施者にとってのメリットにややかけるからか作成が負担な状況がある。一方で、「釧路湿原の自然再生に参加しよう」の結果は PR していきたい。
- 委員 ワンダグリンダと「釧路湿原の自然再生に参加しよう」の実施者は同じであり、負担が増えるのでは？内容が重複するのではないか？
- 委員 毎月活動しており、何年前から内容はほぼ同じ。場所や人数が違うだけだが、やはり負担。メリットあるのか？
- 座長 毎年見る人は異なり、ここに載ることは意味がある。
- 委員 事例集をつくることは喜ばれる。
- 委員 ここに載ることは無駄ではない。毎年続けてきてマンネリ化しており、報告書を書くのは辛いと思う。報告のフォーマットをもっとラフにしては？または様式自由としてはどうか？
- 座長 様子と感想くらいであればどうか？手書きは手書きのまま、写真だけでもいい等。
- 委員 参加者の感想を出すだけでもよいかも。
- 座長 様式自由、字数も自由とすればよい。提出のないものは無理して集めない、という提案だがよいか。
- 委員 書いて提出することのメリットが伝わっていない。報告書の活用を整理しては。
- 座長 編集後記をつけて、そこにそれを書いてはどうか。
- 委員 みんな書くのはきらい。
- 委員 様式が自由な方が書きやすいと思う。
- 座長 様式は変えずに取組の概要部分だけを自由にしては。そして出さない人は無理して集めない。
- 委員 参加人数くらいは記載しては。
- 委員 報告書は実際には苦痛。
- 委員 書くのはいとわないが、メリットがあると言われれば励みにはなる。

座長 ワンダグリンド報告の積み重ねは大きい。他の協議会はやってないので担当者が変わると以前の活動状況等は解らない。記録の積み重ねは評価されている。これがなければ10年前のことはわからない。これは全国に撒かれる。

委員 昨年自然再生の集まりでこれを報告したら喜ばれた。

委員 自分達の団体では毎月新聞を出し、参加行事を全て載せている。

委員 地域の人たちが自分たちでやっている活動をシンボリックに伝えることができる。毎年やっている当事者にとってはあまり魅力なくても価値がある。

座長 事務局で今の話をまとめたうえで考えて欲しい。

議事3 「ワンダグリンド・プロジェクト2014」募集概要

資料3及び昨年ポスターに基づき渡辺自然保護官より説明。チラシポスターは毎年あまり大きく変えないで良いと考えている旨説明。

議事4 「釧路湿原の自然再生に参加しよう！」のバージョンアップのために

引き続き資料4について渡辺自然保護官より説明。

座長 来年度に向けての取組についてご意見をいただきたい。

委員 事業の参加者を募集するとリピーターが多い。行政の立場ではいろんな人に体験してほしいが、リピーターが殺到して申し込み5~10分で満員になることがある。もう一つ、年齢層が幅広くすべてに対応が出来ない。年齢層で分けることも考えなければならない。

座長 年齢層に合わせたプログラム提供が求められている。リピーターがいることは大事であり、それを意識したプログラムを考える必要がある。長期滞在者も入ってきており、それも意識する必要がある。

委員 どんな枠組みだかわかった。

委員 PRの仕方がわからない。アクティビティ講座も数人しか集まらない。HPに載せてもPCがないこともある。

座長 ヒシコンの宣伝は？

委員 FMくしろ、町コンにチラシを配るなどした。

委員 記者クラブに投げ込んでいる。道新に載ったときが一番集まる。

座長 道新4階の報道部に持ち込めばよい。NHKの窓口で行事のご案内のお願いに来た旨言えば、19時前ニュースのお知らせ等で知らせてくれる。

委員 事業の中身にもよる。ねらいを整理するとよい。1回限りではなく翌年も誘ってみては？行って見て勉強になるだけではなく、そこの体験や思い出を持ち帰れるようにすれば続きやすい。長期滞在の人は退屈しており、何かないか探している。

委員 長期滞在の人にはどうアピールすればよいのか？

委員 市役所の2階に情報を求めてたくさんの方が来られている。情報は市民協働推進課に頼めば良いかもしれない。長期滞在にはさまざまな期間、スタイルがある。

委員 マンションを借りている人などは熱心。

- 委員 好奇心があり、元気で、お金と時間がある。する事が無く時間を持て余している人もいる。
- 委員 以前ハンディキャップのある人を案内したことがあり、そういうのをやりたいが、準備等がたいへん。聾啞者は同人数の随行者が必要。温根内は車椅子も入れるしとてもいいのだが。
- 委員 学生ボランティア等を活用しては？
- 座長 土砂流入で胴長体験したが、ハンディキャップのある人を水に入れるだけで十分に体験ができる。
- 委員 もう少し裾野を広げる活動が必要。リタイヤしてわかったが、講座は高齢者が多い。自然再生と言うが、自然を理解してもらおうところからか。意外と熱心なのが転勤族。地元の人よりも精力的に動く。そうした人向けの講座もあるといい。
- 座長 その中の一つとしてフィールドがあるとよい。博物館は5月に転勤族対象の館内案内をしている。
- 委員 活動が知られていないことが一番の課題。
各市町村の高齢者大学と連携し、授業として事業を実施することもできるのではないか。名称・形態は違うが、すべての市町村で実施している。前年度の1～2月頃に市町村教育委員会へ相談すれば、実現可能と考える。
- 委員 幌呂、久著呂、茅沼と現場見学会をやってきた。残る水循環は3月頃小委開催時に藤間先生にセミナーをお願いする。今年の苦労として、釧路市の人には集まってもらえらるが、町村からはなかなか集まってもらえない。現地集合は特に集まってもらえない。
- 座長 私がやっているのは、釧路駅に集まってもらい JR で塘路に行く。公共交通を使うやり方がある。
- 委員 自然再生の現場は駅から遠いのでは？
- 座長 茅沼は大丈夫。細岡から釧路湿原駅まで川沿いを歩くのもいい。
- 委員 バスを出すと、中で自己紹介をして和むなどのメリットはある。
- 座長 埼玉ではブログでクルマを持っている人を集めるような行事のやり方をしていた。そうすると若者が集まるのでは？奥さん方もクルマを持っている。そういうやり方もあるかもしれない。
- 委員 今年是小委で積極的にやろうとしてきた。それまで実施者は役所が多いので役所だけ盛り上がっているとみられがちだったが。地元だけではなく道外や管外からの来訪で経済効果を作り出せないか、という話をしている。
- 委員 釧路川の流域でツアーを考えるとときにルートを商品にするのではなく、湿原の再生なども含めたメニューを出していったらどうか。鶴居も長期滞在を進めるのに、そういう形の方が喜ばれると思う。
- 座長 環境とツーリズムの連携は重要。メニューのデータベースを作って業者に提供する、という作業もしている。そんなことも含めて来年に向けたバージョンアップを考えてもらいたい。

今後のスケジュールについて

資料5に基づき渡辺自然保護官より説明。

- 事務局 パンフレットと応募用紙についてはどうか？今年度の形で良いか？
- 座長 FAX で出す人はどのくらいいるか？
- 事務局 数はわからないが毎年いる。
- 座長 切り取り線を入れる等してはどうだろう
- 委員 メール、FAX 等の割合は
- 事務局 メールが多いがパソコンを持っていない人もいる
- 委員 手書きを携帯で撮影しメールで送ってもらえばよい。申込書に QR コードをつけてアドレスを読めるようにすればよい。
- 事務局 昨年度の形から大きく変更はせず切り取り線を入れるか等検討してみる
-
- 委員 今回ヒシコンは参加費 500 円とした。本当は地域でできるよう、収支をとれるとよい。
- 委員 治水課は保険代 100 円をとることがある。
- 委員 危険度に応じて保険は高くなる。
- 委員 林野も参加費は無料。ドングリクラブは保険料年間 300 円。
- 委員 市役所も無料。
- 事務局 役所の事業は無料が前提だが、民業圧迫の批判もある。お金を回して地域に落とす発想が必要。
- 委員 ヒシ取りはやせる。「ヒシダイエット」で売り出すこともありかも。ヒシの有効活用を募集中。

第 25 回行動計画ワーキンググループを閉会した。